

○牛等の排せつ物に由来する堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応について（平成28年12月27日付け28消安第4228号、28消安第4230号、28生産第1606号、28生産第1607号、28生産第1602号、28生畜第1121号及び28生畜第1120号消費・安全局農産安全管理課長、畜水産安全管理課長、生産局園芸作物課長、技術普及課長、農業環境対策課長、畜産部畜産振興課長及び飼料課長通知）の一部改正新旧対照表

（下線部分が改正部分）

| 改正後   | 改正前   |
|---|---|
| <p>(略)</p> <p>1～5 (略)</p> <p>6. 都道府県の取組<br/>           地方農政局等の担当部長は、都道府県に対し、以下の取組を適切に実施するよう指導を徹底すること。<br/>           (1)～(4) (略)<br/>           (5) (4)の取組を実施する際は、「飼料及び堆肥に残留する除草剤（<u>クロピラリド</u>）の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル（<u>第2版</u>）」（<u>令和2年国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構</u>）を活用するとともに、畜産農家、堆肥製造・販売業者、培土製造・販売業者及び園芸農家・育苗業者等においても当該マニュアルに沿った適切な対応がなされるよう指導・助言を行うこと。</p> <p>7 (略)</p> | <p>(略)</p> <p>1～5 (略)</p> <p>6. 都道府県の取組<br/>           地方農政局等の担当部長は、都道府県に対し、以下の取組を適切に実施するよう指導を徹底すること。<br/>           (1)～(4) (略)<br/>           (5) (4)の取組を実施する際は、「飼料及び堆肥に残留する除草剤の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル」（<u>平成21年（独）農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所</u>）を活用するとともに、畜産農家、堆肥製造・販売業者、培土製造・販売業者及び園芸農家・育苗業者等においても当該マニュアルに沿った適切な対応がなされるよう指導・助言を行うこと。</p> <p>7 (略)</p> |

別紙 1

|                     |   |
|---------------------|---|
| (略)                 | (略)   |
| 作物感受性<br>(被害の受けやすさ) | <p>・作物によってクロピラリドに対する感受性は異なり、敏感な植物については、数ppb<sup>注)</sup>という非常に低い濃度で異常生育が発生する可能性がある。</p> <p>・最も感受性の高い植物は、主にナス科、マメ科、キク科、セリ科に属する。一方、イネ科の麦・牧草・トウモロコシ、アブラナ科のキャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、果樹類などには、通常の施用量であれば影響しない。</p> <p>注) ppb (ピーピーピー) とは 10億分の1の濃度の単位で、非常に微量な濃度を表す単位である。単位の表し方として、1ppb=1µg/kg=1mg/tは同じになる。</p> <p>クロピラリドに対する耐性*</p> <p>極弱: <u>トマト類**</u>、ダイズ、エダマメ、サヤエンドウ、ソラマメ、スイートピー、クリムゾンクローバー、キク、ヒマワリ、<u>マリーゴールド</u>、コスモス、アスター、<u>ダリア</u></p> <p>弱: ナス、ピーマン、シシトウ、<u>ペチュニア</u>、サヤインゲン、エンダイブ、トレビス、シュンギク、<u>レタス類***</u>、フキ、ヒヤクニチソウ、ニンジン</p> <p>中: パレイショ、タバコ、ラッカセイ、アズキ、<u>リョクトウ</u>、ササゲ、ルピナス、ゴボウ、ベニバナ、オステオスペルマム、セルリー、パセリ、イタリアンパセリ、ミツバ、キュウリ、メロン、トウガン、ニガウリ、スイカ、<u>ズッキーニ</u>、ソバ、オクラ、モロヘイヤ、ツルムラサキ、ヒユナ</p> <p>強: アブラナ科、ユリ科、<u>ヒユ科****</u>、シソ科、ナデシコ科、ヒルガオ科、バラ科、<u>トルコギキョウ</u>、<u>パンジー</u>、<u>プリムラ</u>、<u>キンギョソウ</u></p> <p>極強: イネ科</p> <p>* 品種により耐性評価のランクが変動する場合がある</p> <p>** <u>トマト類</u>: ミニトマト、中玉トマト、大玉トマト</p> <p>*** レタス類: 結球レタス、サニーレタス、グリーンリーフ、ロメインレタス、チマサンチュ、サラダ菜、ステムレタス<br/>(削る)</p> <p>**** APG IV分類体系に従い、「アカザ科」から「ヒユ科」に変更する</p> |

参照: 「飼料及び堆肥に残留する除草剤(クロピラリド)の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル(第2版)」(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)

別紙 1

|                     |  |
|---------------------|--|
| (略)                 | (略)  |
| 作物感受性<br>(被害の受けやすさ) | <p>・作物によってクロピラリドに対する感受性は異なり、敏感な植物については、数ppb<sup>注)</sup>という非常に低い濃度で異常生育が発生する可能性がある。</p> <p>・最も感受性の高い植物は、主にナス科、マメ科、キク科、セリ科に属する。一方、イネ科の麦・牧草・トウモロコシ、アブラナ科のキャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、果樹類などには、通常の施用量であれば影響しない。</p> <p>注) ppb (ピーピーピー) とは 10億分の1の濃度の単位で、非常に微量な濃度を表す単位である。単位の表し方として、1ppb=1µg/kg=1mg/tは同じになる。</p> <p>クロピラリドに対する耐性*</p> <p>極弱: <u>トマト</u>、ダイズ、エダマメ、サヤエンドウ、ソラマメ、キク***、ヒマワリ、コスモス、アスター、スイートピー、クリムゾンクローバー</p> <p>弱: ニンジン、エンダイブ、トレビス、シュンギク、フキ、サヤインゲン、ナス***、ピーマン、シシトウ、ヒヤクニチソウ</p> <p>中: <u>レタス類**</u>、セルリー、パセリ、イタリアンパセリ、キュウリ、メロン、トウガン、ニガウリ、スイカ、パレイショ、ラッカセイ、アズキ、ササゲ、ソバ、オクラ、ゴボウ、モロヘイヤ、ツルムラサキ、ヒユナ、ミツバ、タバコ、<u>ペチュニア</u>、<u>マリーゴールド</u>、ベニバナ、ルピナス、オステオスペルマム</p> <p>強: アブラナ科、ユリ科、<u>アカザ科</u>、シソ科、ナデシコ科、ヒルガオ科、バラ科</p> <p>極強: イネ科</p> <p>* 品種により耐性評価のランクが変動する場合がある<br/>(新設)</p> <p>** レタス類: 結球レタス、サニーレタス、グリーンリーフ、ロメインレタス、チマサンチュ、サラダ菜、ステムレタス<br/>(新設)</p> <p>***平成29年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業「作物被害低減のためのクロピラリド動態説明」の研究結果に基づき、キクは「弱」から「極弱」に、ナスは「中」から「弱」に変更する<br/>(新設)</p> |

参照: 「飼料及び堆肥に残留する除草剤の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル」(独)農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所)および「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 研究紹介2018 作物被害低減のためのクロピラリド動態説明」

## クロピラリドによる生育障害の発生 のしやすさは作物ごとに異なります

- 試験により、以下の作物のクロピラリドに対する感受性が確認されています。
- 最も感受性の高い作物は、主に**ナス科**、**マメ科**、**キク科**に属します。一方、イネ科（麦・牧草・トウモロコシ等）、アブラナ科（キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ等）、果樹類等には、通常の堆肥施用量であれば影響しません。
- わが国ではこれまでに、「特に弱いもの」「弱いもの」「中程度のもの」に属する作物において、クロピラリドによると疑われる生育障害の報告例があります。

|        | ナス科                         | マメ科   | キク科   | セリ科                            | ウリ科   | その他   |
|--------|-----------------------------|---|---|--------------------------------|---|---|
| 特に弱いもの | トマト類*                       | ダイズ<br>エダマメ<br>サヤエンドウ<br>ソラマメ<br>スイートピー<br>クリムゾンクローバー | キク<br>ヒマワリ<br>マリーゴールド<br>コスモス<br>アスター<br>ダリア      |                                |   |   |
| 弱いもの   | ナス<br>ピーマン<br>シシトウ<br>ペチュニア | サヤインゲン  | エンダイブ<br>トレビス<br>シュンギク<br>レタス類**<br>フキ<br>ヒャクニチソウ | ニンジン                           |   |   |
| 中程度のもの | パレイショ<br>タバコ<br>(削る)        | ラッカセイ<br>アズキ<br>リュウクトウ<br>ササゲ<br>ルピナス                 | (削る)<br>ゴボウ<br>(削る)<br>ペニバナ<br>オステオスベルマム          | セルリー<br>パセリ<br>イタリアンパセリ<br>ミツバ | キュウリ<br>メロン<br>トウガン<br>ニガウリ<br>スイカ<br>ズッキーニ | ソバ<br>オクラ<br>モロヘイヤ<br>ツルムラサキ<br>ヒユナ   |
| 強いもの   |                             |   |   |                                |   | アブラナ科<br>ユリ科<br>ヒユ科<br>シソ科<br>ナデシコ科<br>ヒルガオ科<br>バラ科<br>トルコギキョウ<br>バンジュー<br>プリムラ<br>キンギョソウ |
| 特に強いもの |                             |   |   |                                |   | イネ科   |

・表に記した試験を行った作物のほか、トウガラシ（ナス科）、ガーベラ、メランポジウム（ともにキク科）でも生育障害の報告例があり、注意が必要です。

・各作物種の耐性評価は品種により変動する場合があります。

\* トマト類：ミニトマト、中玉トマト、大玉トマト

\*\*レタス類：結球レタス、サニーレタス、グリーンリーフ、ロメインレタス、チマサンチュ、サラダ菜、ステムレタス

参照：「飼料及び堆肥に残留する除草剤（クロピラリド）の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル（第2版）」（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構）

（農産部技術総合研究機構）

## クロピラリドによる生育障害の発生 のしやすさは作物ごとに異なります

- 試験により、以下の作物のクロピラリドに対する感受性が確認されています。
- 最も感受性の高い作物は、主に**ナス科**、**マメ科**、**キク科**に属します。一方、イネ科（麦・牧草・トウモロコシ等）、アブラナ科（キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ等）、果樹類等には、通常の堆肥施用量であれば影響しません。
- わが国ではこれまでに、「特に弱いもの」「弱いもの」「中程度のもの」に属する作物において、クロピラリドによると疑われる生育障害の報告例があります。

|        | ナス科                        | マメ科   | キク科   | セリ科                            | ウリ科  | その他  |
|--------|----------------------------|---|---|--------------------------------|--|--|
| 特に弱いもの | トマト<br>ミニトマト               | ダイズ<br>エダマメ<br>サヤエンドウ<br>ソラマメ<br>スイートピー<br>クリムゾンクローバー | キク<br>ヒマワリ<br>(新設)<br>コスモス<br>アスター<br>(新設)      |                                |  |  |
| 弱いもの   | ナス<br>ピーマン<br>シシトウ<br>(新設) | サヤインゲン  | エンダイブ<br>トレビス<br>シュンギク<br>(新設)<br>フキ<br>ヒャクニチソウ | ニンジン                           |  |  |
| 中程度のもの | パレイショ<br>タバコ<br>ペチュニア      | ラッカセイ<br>アズキ<br>(新設)<br>ササゲ<br>ルピナス                   | レタス類<br>ゴボウ<br>マリーゴールド<br>ペニバナ<br>オステオスベルマム     | セルリー<br>パセリ<br>イタリアンパセリ<br>ミツバ | キュウリ<br>メロン<br>トウガン<br>ニガウリ<br>スイカ<br>(新設) | ソバ<br>オクラ<br>モロヘイヤ<br>ツルムラサキ<br>ヒユナ                          |
| 強いもの   |                            |   |   |                                |  | アブラナ科<br>ユリ科<br>アカザ科<br>シソ科<br>ナデシコ科<br>ヒルガオ科<br>バラ科<br>(新設) |
| 特に強いもの |                            |   |   |                                |  | イネ科  |

・表に記した試験を行った作物のほか、トウガラシ（ナス科）、ガーベラ、メランポジウム（ともにキク科）でも生育障害の報告例があり、注意が必要です。

・各作物種の耐性評価は品種により変動する場合があります。

(新設)

\*\*レタス類：結球レタス、サニーレタス、グリーンリーフ、ロメインレタス、チマサンチュ、サラダ菜、ステムレタス

参照：「飼料及び堆肥に残留する除草剤の簡易判定法と被害軽減対策マニュアル」（独）農業・食品産業技術総合研究機構産産農研研究所  
および「農林水産省・食品産業科学技術研究推進事業 研究紹介2018 作物被害低減のためのクロピラリド動態観測」

令和2年11月12日から施行する。